

体表面電気刺激療法として実績のあるSSP療法。
それに自然界のリズムとされる
「1/fゆらぎ」を融合させたレアド。

頸背部



肘部



腰背部



膝部



Laird

レアド SSP療法器



1/fゆらぎ

くり返し浜辺に打ち寄せる波の音、木立を通り抜ける心地よい風には、なぜか心がやすらぎます。これら自然界の現象の中には、「1/fゆらぎ」といわれるリズムがあります。これは、ひとつひとつのリズムが独立しているようでも、時間的に前後の関係がゆらいでいることを言います。この「1/fゆらぎ」は、安らいでいる人の脳波や、心拍のR-R間隔にも同様な現象があることがわかりました。



S.S.P. 療法 (Silver Spike Point)

S.S.P. (Silver Spike Point) 療法は、円錐の形状を持つ金属電極を用いた体表面刺激療法。1976年、大阪医科大学麻酔科と日本メディックスとの産学共同研究より開発されました。S.S.P. 療法は「刺さない針療法」とも呼ばれており、発表以来25年、数々の基礎研究、臨床研究が行われ、ペインクリニック、リハビリテーションなど痛みの専門分野だけでなく、内科、産婦人科、皮膚科、小児科、歯科などの幅広い分野に広がっています。また、日本のみでなく、鍼灸治療の本場である中国、台湾、そして韓国をはじめとするアジア各国、オーストラリア、中東など世界各国にその治療技術は認められています。

S.S.P. 電極の特性

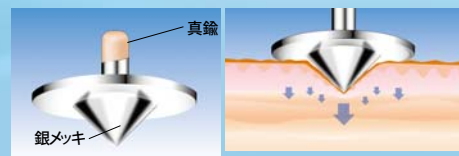
S.S.P. 電極は、真鍮に銀メッキを施した金属電極。形状は、円座がありその中央部が円錐状になっています。先端部が、皮膚に密着する際に圧力が集中し、皮膚抵抗の高い角質層を変形させます。その結果、先端部に電流が集中するため、治療点への高密度な通電が可能となりました。同時に円座のふちにも圧力がかかるために、ここからも若干の電流が流れます。これは、過大電流に対する自動防御的な機能を果たす役割をしていると考えられています。

※小田博久ほか「経皮的電気刺激療法電極の電流分布」；日本医事新報. 1978年

©Silver Spike Pointは、株式会社日本メディックスの登録商標であり、S.S.P. は、その略称です。

©S.S.P. 電極は、その専用使用のために開発されたS.S.P. 療法器のみに使用することが法律で認められています。

また、すべてのS.S.P. 電極には「S.S.P.」と刻印されています。類似品にご注意ください。



S.S.P. 療法・S.S.P. 電極について詳細な情報が必要な方は、「S.S.P. 療法ガイド」がS.S.P. 療法研究会より発行されていますのでご覧ください。